

JUNKO NEWS

Vol.84
2024.6

特集 埼玉県立循環器・呼吸器病センター病院長 池谷 朋彦
副病院長兼看護部長 株崎 雅子





池谷 朋彦 Tomohiko Ikeya

令和6年4月1日をもって埼玉県立循環器・呼吸器病センター病院長に就任した池谷朋彦です。前院長柳澤 勉先生の下 副院長としてコロナ禍の大変な時代を補佐してまいりました。病院の理念を大切に頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

当センターの特色

平成10年（1998年）4月に埼玉県立循環器・呼吸器病センターと改名され、平成29年3月に新館棟がオープンし病床数も282床から343床に増床しました（陰圧室24床含む）。平成30年3月に腎・透析センター、翌平成31年4月に脳神経センターの設置、さらに令和2年12月にはハイブリッド手術室が設置されました。一刻を争う急性疾患である脳卒中や心筋梗塞、大動脈疾患など多くの救急患者を受け入れ、不断の努力で治療しています。

また令和2年初めに発生した新型コロナウイルスに関しても、埼玉県北部だけに限らず、広く多くの重症患者を受け入れ、献身的にその職務を全う致しました。救急医療や高度専門医療を担う全てのスタッフに大変感謝しています。また医療の進歩により低侵襲な治療も積極的に行っております（胸腔鏡下心臓・肺縦郭腫瘍の手術、血管のステント留置術、TAVIといわれる心臓弁置換など）。肺癌を中心にした胸部の「がん」についても診断や化学療法（外来含む）を積極的に行っています。

もちろん新型コロナウイルスをはじめ結核や細菌・ウイルス感染による肺炎などの感染症や、肺気腫や間質性肺炎などの疾患に対しても、正確な診断治療を行っています。腎臓内科は当センターの患者のみならず近隣の透析を必要とする患者さんも含めて対応しています。放射線診断科は迅速かつ正確に診断報告書を主治医に提出しており、特に外来の患者さんは検査を受けたその日に診断結果が出るため、結果を聞きに日を変える必要はありません。放射線治療科は照射装置が新しくなり、短期間で効果を得られる定位照射も可能になりました。麻酔科やリハビリも、人員は充足していませんが、高い技術で安全な医療を提供しています。病理診断科も専門性の高い診断をしています。

看護師や薬剤師、検査技術師、医療事務・他、医療に携わるスタッフもみな高い志と誇りをもって患者さんのために働いていて多くのお褒めを頂いています。

働き方改革に際して

令和3年4月に地方独立行政法人埼玉県立病院機構に移行し、基本的には独立採算の形となりますが、当センターの理念は変わりません。誠意と熱意をもって患者さんに接する「患者第一」を信条としています。

今年度から猶予されていた働き方改革の波が医療界にも来ております。医は仁術であり患者さん第一ですが、医療者も人間ですので働き過ぎで立場が逆転しては本末転倒です。自己犠牲の上になり立つ今までの働き方は変えなくてはいけない転機が来ていると思います。欧米並みの休息やタスクシフトには程遠いですが、少しずつでも進歩していると思います。

新しい時代に則した働き方を職員も患者さんも許容していただければと思います。どうかよろしくお願い致します。



私のこと

最後に僭越ですが自己紹介をします。私は姫路市で生まれて、小4から大阪高槻に引っ越し大学入学（富山県）までいました。池谷姓は親の出身が静岡（小山町）だからです。

当センターに赴任したのは、埼玉県立循環器・呼吸器病センターと改名された平成10年です。

私が医師を目指したのは7歳位で一層動機付けになったのは無医村や僻地医療の存在です。人間として生まれた以上同じレベルの医療を受けられないのは不平等であり、その格差が争いを生むと思っています。世界平和にはまず医療の平等をなくすことも重要と考えました（昔は純粋でした）。

今は医療も重要ですが中村哲先生が行き着いた結論のごとく、開墾開拓による食料の確保の方が重要だと思えます。まったく初志貫徹していませんが、少しでもこの埼玉県北部の医療レベルが高くなり救える命を増やしたいと思っています。

※1946-2019 医師。アマガニスタンで医療支援、井戸の掘削、用水路建設などに従事した。



幼少期 ご家族との記録



DOCTOR'S HISTORY

肺のデザイン



2005年頃 手術室にて



先生の包まれるような大きな手で握って安心し、手術へ臨まれる患者さんも多いです。

令和6年4月1日より就任しました副病院長兼看護部長の株崎雅子です。30周年を迎えたこの歴史ある循環器・呼吸器病センターで看護部長という重責を担うことに、身の引き締まる思いです。どうぞ、よろしくお願いたします。

さて、循環器・呼吸器病センターは、埼玉県やこの北部地域の循環器・呼吸器系疾患の高度急性期医療、看護を提供し、地域医療を担う役割があります。また令和2年2月から新型コロナウイルス感染症患者さんの受け入れを開始して以来、この未知なるウイルスと戦ってまいりました。一緒に戦ってくださった患者さんやご家族、そして医療スタッフに感謝の気持ちでいっぱいです。

このように循環器・呼吸器病センターでは、多くの救急、重症患者さんを受け入れております。看護部では、**患者さんの生命・権利を尊重し、信頼される看護部を目指します**を理念に掲げ、看護師一人一人が患者さんの「いのち」に寄り添い、最善のケアができるよう努力しています。

看護部の5つのマインドである **安心安全 患者中心 協働 成長 参画** を大切に、看護師の育成に取り組んでいます。患者さんに信頼されるためには、確かな知識・技術を持って安心・安全な看護を実践することが重要です。新人看護師は経験豊かな先輩看護師から毎日、知識・技術の指導を受けています。また日々の患者さんとの関わりの中からも、看護の礎となるものを学び自己の成長につなげています。

昨年度から、新型コロナウイルス流行前に開催していましたが「いきいき健康塾」を再開しております。今年は専門看護師や認定看護師が皆さんの地域にお伺いし、健康でいきいきと暮らせる生活のヒントとなることとお話ししたいと思っております。患者さん、ご家族だけでなく、地域の皆様に愛される病院になるよう一層努力してまいります。一人でも多くの方に、循環器・呼吸器病センターのサポーターになっていただけたらとてもうれしいです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

副病院長兼看護部長 株崎 雅子
Kabusaki Masako



X (旧 Twitter) で情報発信中！

循環器・呼吸器病センターでは、11月からX (旧 Twitter) の運用を開始しました。病院からのお知らせのほか、結核病棟を持ち2類感染症に対応する医療機関として感染症流行情報も発信しています。

Xを始めたのは、患者さんやご家族、地域の皆様に当センターを知ってもらいたいという意識からです。発信する情報が健康意識や当センターへの関心などのきっかけになればうれしく思います。皆様のフォロー、いいね、ぜひよろしくお願いいたします。



公式SNS はじめました

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立循環器・呼吸器病センター

〒360-0197
埼玉県熊谷市板井1696 TEL048 - 536-9900
<https://www.saitama-pho.jp/junko-c/>

循環器・呼吸器病センターの YouTube もぜひご覧ください

